

創省蓄 エネルギー

週刊「エネルギーと環境」姉妹版
創エネ時報 月2回発行

2018 11.1

vol. 171

時報

特集

再生エネ事業と環境金融

- ①急ブレーキの認定減額措置問う ②さらなる ESG
金融推進へ ③上場インフラファンド

おらがまち
電力

市民エネルギーちば

特別
レポート

下水道リノベーションで再エネ



環境省が主催したESG金融懇談会

株式会社エネルギージャーナル社

本誌 **15** 大テーマ

太陽光 水素 政策全般
風力 中小水力 地熱・地中熱
省エネ スマートコミュニティ
バイオマス 関連企業 太陽熱
コージェネ 蓄電池・燃料電池

〈11〉 市民エネルギーちば

自然エネルギーと有機農業の融合で22世紀の村づくり

会社の成立ちとこれまでの歩み

私自身は2011年3月の原子力事故を受けて、同年7月より太陽光講座を柱としたNPO「グリーンタートルズ」を運営していましたが、“自分たちでも市民発電所を作ろう!!”という機運が高まり、13年の9月から千葉県内の環境団体の理事・代表クラスのメンバーに対して声掛けを始め、14年7月に「市民エネルギーちば合同会社」は生まれました。9人が一人10万円を出し合い、資本金90万円というとても小さな出発でした。様々な出会いと多くの方々のご協力をいただき、少しづつ会社は成長を続け、現在、資本金710万円で18年12月には資本金1,000万円に増資して株式会社に組織改編を行います。

14年9月の初号機(DC35kW)通電を皮切りに、4年間で完全子会社含めた自社発電は1.7MW(DC1,700kW/建設中含む)になりました。19年はさらにDC650kWの自社設備を建設予定です。

設備下の農業を担当する関連会社/農業生産法人「Three little birds」を16年2月に設立し、ソーラーシェアリングで設備下の圃場は全て有機JASを取得して有機農業を行っております。少しづつ良い販売先と出会う中で事業は安定してき

そうき 匝瑳メガソーラーシェアリング



ました。ソーラーシェアリングで最も重要な要素である営農の継続性が担保されたことで資金調達の安定性が高まりました。

18年10月には六次産業や農村民泊・農村ツアーなどソフト面に特化した農業生産法人「株式会社Re」も設立しました。また、18年3月には発電収入を活用して地域興しを推進する『豊和村づくり協議会』も設立され地域の様々な問題解決プログラムも複数進行中です。パタゴニアなどの環境企業との連携も始まり、グループ全体として「自然エネルギーと有機農業の融合による地域再生」が一步一步形になってきました。

ビジョンの大切さ……

会社設立から半年ほど経って「自然エネルギーは地域作りと連動することが本質だ!!」と気づき、本社を都市部の千葉市から設備のある農村部そうきの匝瑳市に移転しました。

この時点で「全ての環境問題は繋がっている…」という理念が明確になり、「循環」「共生」「シェア(分かち合い)」をテーマに“環境問題にトコトンこだわる!!”こととなりました。小さな小さな私たちが短期間でここまで様々なことを実現

市民エネルギーちば合同会社について

- ①設立：2014年7月 場所：千葉県匝瑳市飯塚1037-1
代表者：東 光弘
- ②業務内容：ソーラーシェアリングに特化した自社発電・他社設備施工・部品&スキーム開発
- ③主要取引先など：パタゴニア、鴨川自然王国、無茶々園など
- ④年間売上(実績)：約1億円(子会社含めると1.5億円)

『シェアをテーマにそれぞれが有機的・総合的に連携』



できたのは、コンセプトをぶらさずに早い時点から5年後のイメージを強く持てたからだ、振り返り改めて思うところです。

資金のこと・出会いと協業の大切さ…

資本金が90万円しかなかったため、初号機の建設資金はスタッフが会社に資金を貸付ける形で何とか完成にこぎつけ、その後、環境仲間の市民ソーラーの協力を得て「パネルオーナー制」を活用することで、多くの皆様から資金協力をいただきスタッフには返済できました。この小さな一歩が大きなきっかけとなり、16年から城南信用金庫さんから資金協力（融資）などの協力を得て、SBIエナジーからの社債、千葉エコ・エネルギー・アースガーデンからの匿名組合出資を受けて、17年3月に長島式では当時国内最大のソーラーシェアリングを完成することができました。この設備のおかげで私たちの会社の知名度は一気に上がり、城南信用金庫からはその後、低圧4設備分の融資を受けることができました。

また18年10月には世界的なアウトドアメーカー「patagonia/パタゴニア」から1,500万円の社債を受けて低圧設備を建設することとなりました。この電気はパタゴニアの店舗で使われますが、今後、同様のスキームでパタゴニア国内全店舗分の電気を当地のソーラーシェアリングで賄うプロジェクトが進行中です。今後はSDGsの17項目を社内的に達成しながら、RE100の流

れを活用していくことも大きな資金調達の方法として捉えているところです。

今後の課題 / 関わる人々の幸せ……

“とかく環境問題の仕事に関わると経済的に厳しいという状況を打破したい…”。

環境問題の改善にとって「お金 / 経済性」はなくてはならないものですが、やはり一番大切なことは「人 / 人材」だと考えています。関わるスタッフたちもだんだん家族が増え、生活の充実が不可欠です。より付加価値の高い会社に育てることで、待遇を改善し、みなぎ安心して仕事や生活ができるようになることが大きなテーマであり、最も力を入れていることです。

ソーラーシェアリング収穫祭

現在のスタッフ一人一人が、だんだん幸せになることで、また新しい仲間の良い



形で出会えたらいいな…と考えています。自分たちが幸せになっていくことが、日本全体・世界全体の幸せに繋がればこんな素敵なことはないと思うのです。また交流や文化も関わる方々の幸せに不可欠と考え、17年より新住人・既存住人・都市部住人の交流を目的とした「ソーラーシェアリング収穫祭」開催も継続中です。

毎日コツコツ・22世紀の村づくり

5年以内に自社設備を10MWまで設置し、地元のバイオガス発電会社と連携して「匠瑛電力」を別会社として作り、電力小売り事業も開始したいと考えています。様々なセクション・事業・人材が有機的に繋がって1本の木のように立体的な体制を作って希望ある村を実現したいと考えています。

[代表 東 光弘]